

鳥インフルエンザに次亜塩素酸水を

高市早苗総理の記憶から次亜塩素酸水のことを書いたが、この用途は人間の感染予防だけではなく、酪農でも極めて有効である。

過日、鳥インフルエンザが発生し46万羽を殺処分している最中の北海道白老町に行ってきた。お付き合いのある町議に状況を聞き、鳥インフルエンザを不活化する次亜塩素酸水を広域噴霧する機材を車に詰めるだけ持つて説明に向いた。コロナ禍では感染対策で活躍した機材たちで、当然 新型インフルエンザにも鳥インフルエンザにもノロウイルスにもマイコプラズマ肺炎

にも百日咳の感染予防にも効く。町の総合体育館には北海道が



▲牛舎での次亜塩素酸水噴霧



▲国内事例



▲海外事例



▲JFK
ホームページ

も感染し、車のタイヤや靴底からの移動も考えられる。今年の北海道帯広のばんえい競馬を一時中止させた馬インフルエンザの感染でも緊張が走ったが、サラブレッド馬産地では次亜塩素酸水が日頃の

対策本部を置き、連日発生現場の養鶏場へバス何台もで移動し殺処分と埋設を行っている。道の職員が中心と聞いているが、大変な動員と運営作業が続いており頭が下がる。広い体育館の中で、数十人が防護服に着替え、現地レッドゾーンでは靴からの感染拡大を防ぐため、長靴を履き替えて作業している。



▲白老町の殺処分に向かうバス

専門家に伺ったところでは、養鶏場での鳥インフルエンザの発生は渡り鳥やカラスの糞からも感染し、車のタイヤや靴底からの移動も考えられる。今年

消毒に使われていて、コロナ禍では町民に配布された。酪農業では、靴底の消毒や入構時のタイヤ消毒はもちろん、牛も豚も鶏も羊も次亜塩素酸水を畜舎内空間に霧状に噴霧することで空気感染を予防し舎内を消毒しているところが多くある。地下水からの感染もありうるので水飲み水槽に次亜塩素酸水を薄く入れておくことにも効果があるそうだ。

今回の道への提案は、殺処分に動員された職員の方々がご自宅に帰る前に、全身外観を次亜塩素酸水で噴霧消毒することに

より安心して帰宅してもらうという提案である。鳥インフルエンザが人間に感染しないとは言うものの、殺処分の職員は方々を一を考えて防護服を着てゴーグルをかけている。コロナの時には「お父さん、玄関で全部脱いで、風呂場で洗ってきて」と冗談のような風景もあった。ご家族やペットの安心のためにも現場からバスに乗り込む前に、全身噴霧消毒を行うことをマニュアル化するかどうか。



▲防災・停電対策



▲新型コロナウイルス対策

どこかで自然災害が起これば、避難所にはコロナ感染者やインフルエンザ患者も避難してくる。今更体育館の床や壁や手すりを漂白剤を500倍に薄めて拭き取るなどというマニュアルは無

いはずだから、最新の資材と技術の情報を更新して備えてもらいたい。株式会社あかりみらいでは、コロナバスターズ事業として3000に相当の次亜塩素酸水を生成でき、6年間の備蓄が可能な手のひらサイズのパウダーを避難所の数だけ寄贈してきている。また、災害時の停電対策として、15000mAhのコンセント付きハイブリッド車を発電機として使うことを可能とする電流制限機付き給電キットも寄贈している。

■避難所の感染対策にも

私が代表理事を務める一般社団法人次亜塩素酸水普及促進会議では能登半島地震で3度の現地支援に向き、避難所での感染対策物資を寄贈してきた。今、

総理就任祝いに挨拶に向いた高市早苗国会議員事務所では次亜塩素酸水の空間噴霧を絶やしたことがない。ちなみに財務大臣に就任された片山さつき議員は「感染対策を技術と資材から考える超党派議員連盟」の会長を務めていただいている。国の感染対策が進むことを期待している。